

目次

国語 Vol.1

第一章 習得編

1	文学的文章 (1) (隨筆)	例題	確認問題	4
2	文学的文章 (2) (隨筆)	確認問題	8	
3	文学的文章 (3) (隨筆)	練習問題	12	
4	説明的文章 (1)	例題	確認問題	16
5	説明的文章 (2)	確認問題	20	
6	説明的文章 (3)	練習問題	24	
7	詩 (1)	例題	確認問題	28
8	詩 (2)	練習問題	32	
9	漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち) 部首/画数/筆順	例題	確認問題	36
10	文法 (1) (ことばの単位)	例題	確認問題	40
		練習問題		

第二章 定着編

11	文学的文章 (4) (小説)	例題	確認問題	44
12	文学的文章 (5) (小説)	確認問題	48	
13	文学的文章 (6) (小説)	練習問題	52	
14	説明的文章 (4)	例題	確認問題	56
15	説明的文章 (5)	確認問題	60	
16	説明的文章 (6)	練習問題	64	
17	詩 (3)	例題	確認問題	68
18	詩 (4)	練習問題	72	
19	漢字・語句 (2) (音読みと訓読み/熟語の組み立て)	例題	確認問題	76
20	文法 (2) (文節相互の関係)	例題	確認問題	80
		練習問題		

第三章 演習編

21	文学的文章 (7) (隨筆)	練習問題	84
22	文学的文章 (8) (隨筆)	練習問題	88
23	文学的文章 (9) (隨筆)	練習問題	92
24	说明的文章 (7)	練習問題	98
25	说明的文章 (8)	練習問題	102
26	说明的文章 (9)	練習問題	108
27	短歌・俳句 (1)	練習問題	114
28	短歌・俳句 (2)	練習問題	118
29	漢字・語句 (3) (類義語・対義語)	練習問題	122
30	文法 (3) (文の成分)	練習問題	124

第四章 実戦編

31	文学的文章 (10) (小説)	練習問題	128
32	文学的文章 (11) (小説)	練習問題	134
33	文学的文章 (12) (小説)	練習問題	140
34	说明的文章 (10)	練習問題	148
35	说明的文章 (11)	練習問題	154
36	说明的文章 (12)	練習問題	160
37	古典 (1)	練習問題	166
38	古典 (2)	練習問題	170
39	漢字・語句 (4) (ことわざ・慣用句・四字熟語)	練習問題	174
40	文法 (4) (品詞)	練習問題	176
付録	漢字練習 1 ~ 40		180

第一章 習得編

1 文学的文章 (1) (随筆)

例題 1



〈宮下正美「自然の深い知恵に学ぼう」より〉

- (1) 本文を大きく三つに分けるとすると、①第二の部分と、②第三の部分はどこから始まりますか。それぞれ最初の八字を書きぬいて答えなさい。
- (2) 線部「いらぬ世話はしないことだ」とありますが、なぜ「いらぬ世話」をしてはいけないのですか。その理由を書いて答えなさい。
- (3) 本文の主題を表していることを本文中から五字で書きぬいて答えなさい。

解法のポイント

- (1) **段落構成** 文学的文章では、場面の変化によって段落が決まります。場面

の変化は、時間、場所、登場人物、心情の変化として表現されますので、これらの点に注意しましょう。

第一段落：母がニワトリのひなを見せながら教えてくれたこと。

第二段落：父がカイコのマユを見せながら教えてくれたこと。

第三段落：（この文章の主題）母や父の教えから「私」が考えたこと。

解答 ①生まれこぎょうの ②ひなでもカイコで

- (2) **内容理解** 父は特に説明していませんが、その理由は母が言ったのと同じでしょう。

解答例 自分の力でマユから出ないと、強く生きていけないから。

- (3) **主題** この文章の主題は最後の一文に表現されています。その中で強調されている言葉を探しましょう。

解答 自分の力で

〈俵万智「四万十川のウナギ」より〉

20 15 10 5

(1) — 線①「柴をたばねたものを川にしずめ、一週間から十日たったところで引き上げる」とありますが、これは、引き上げるまでの一週間から十日の間はどうなることを待っているのですか。書いて答えなさい。

(2) — 線②「半分は山の仕事」とは、どういうことですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 柴づけ漁では、川での漁の作業と同じぐらい、山で柴を刈る作業も大事だということ。

イ 柴づけ漁では、まず山で柴を刈る作業を済ませたあとに、川で漁を行うということ。

ウ 柴づけ漁では、山で柴を刈るばかりでなく、川でえものもつかまえるということ。

エ 柴づけ漁では川の生き物をつかまえるが、その生き物を育てているのは山だということ。

(3) 本文中からは次の一文がぬけ落ちています。これを元にもどす場合に適切な場所を本文中から探し、この文の直前に来る一文の最後の十字（句点も字数に数えます）を書きぬいて答えなさい。

〈むしろ「美しいな」と思った。〉

解法のポイント

(1) 内容理解 「住む」というのがミソに着目します。柴をたばねたものを

をすぐ引き上げたのでは、えものがそこに住みつくひまがありません。

〔解答例〕柴をたばねたものに川エビやウナギが住みつくこと。

(2) 内容理解 ふつう、漁は川や海で行われる作業が仕事の大半だと思われ

がちです。しかし、柴づけ漁では柴をたばねたものの出来に結果が左右されるため、山の仕事も漁の重要な作業であることがわかります。

〔解答〕ア

(3) 脱文挿入 脱落した文を元に戻す問題の場合、脱落した文の最初のこと

ばに注意します。例題では「むしろ」の働きに着目しましょう。

〔解答〕はまったくなかった。

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

15 10 5

〈庄野潤三「春の花・うぐいす」より〉

- (1) **設定** 「私」が本文を書いているのはいつごろの季節だと考えられますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
- ア 盛冬 イ 初春

ウ 初夏 エ 晩夏

- (2) 線①「ひどくはない」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。
- ① **内容理解** どのようなことが「ひどくはない」というのですか。「こと」という形で書いて答えなさい。

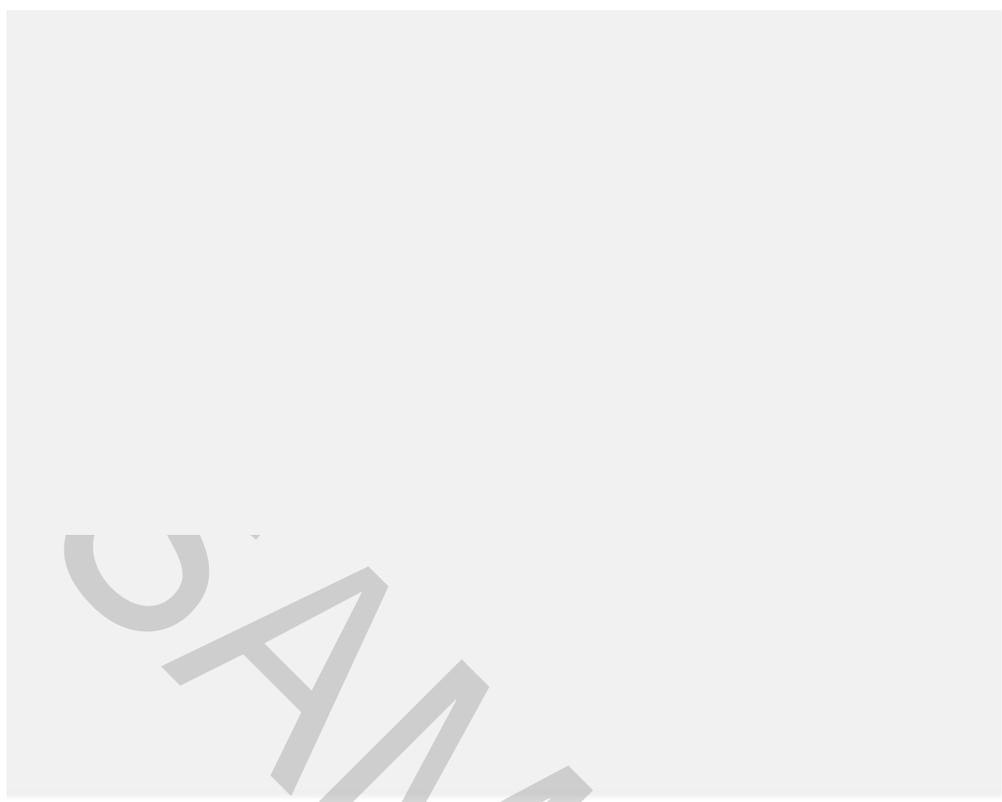
- ② **内容理解** 「ひどくはない」のうぐいすが「私」の家に來る目的を、「ため」という形で書いて答えなさい。

- (3) **内容理解** 線②「目ざましい勢い」が最もよく表されている一文を本文中から探し、その最初の八字を書きぬいて答えなさい。

- (4) **心情** 線③「ふとんで□をふさいだ」とありますが、このときの「私」の気持ちとして適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア うぐいすをおどろかせたくない。
- イ うぐいすの声を喜んだ自分が情けない。
- ウ うぐいすに思う存分鳴かせてやりたい。
- エ うぐいすの鳴き声をもっと聞きたい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈黒沼ユリ子「バイオリンと歩むなかから」より〉

20 15 10 5

□(1) **心情**——線①「正面に白髪の教授陣がブラツと居並ぶ客席を前に

ステージに立った私」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号

- ア 期待 イ 絶望 ウ 満足 エ 緊張

□

□(2) **心情**——線②「熱心に指導してくださいました先生には『申しわけな

い』と思つた」とありますが、「私」がこのように思つた理由をまとめた

次の文の□に入る適切なことばを、「自分がくから」という形で、

二十五字以内（読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

〈先生がせっかく熱心に指導してくれたのに、□〉

□(3) **内容理解**——線③「言葉をさえぎる」のここでの意味として最も適

切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 先生がとつぜん話すのをやめてしまうこと。
 イ 先生が私の話に割りこんで、話し始めること。
 ウ 先生が私の話とは異なる内容の話をはじめること。
 エ 先生が私の話の内容について注意をあたえること。

□

□(4) **内容理解**——線④「それ」が指していることばを、本文中から五字

で書きぬいて答えなさい。
